

研究紀要の発刊にあたって

「伝え合う力の育成」をメインとした研究へと絞り込んで、3年目となる校内研究となりました。

研究テーマ；『すすんで学び豊かな表現で伝え合う児童の育成』、サブテーマ；『国語科における「話すこと・聞くこと」の指導の工夫を通して』としてからも2年目の取り組みとなります。

宮城野の子どもたちにつけたい力として考えられた、「伝え合う力」の育成をより具体的に、系統的にするためにカリキュラムの自校化を目指したり、他教科との系統や関連をまとめたりしながら、今年度の研究を進めて参りました。

各学年部で取り組みを重ねた結果、十分とは言えないまでも、発表をするということについては、国語科に限らず各学年部で昨年にも増して目に見える成果を上げることができました。

6年生は修学旅行の発表会、5年生は野外活動の発表会、4年生は校外学習の発表会というように、各学年が機会のあるごとに「伝え合う力」の育成を念頭に置き、指導に当たることも宮城野の伝統となりつつあります。

さらに、上の学年の発表を聞くことにより自分たちの発表を見つめ直したり、新たな目標を持ったりすることができたことも子どもたちにとっては大きなステップとなるとの評価から、各学年がそれぞれ上の学年の発表を聞く機会を設定することも定着してきました。

これからも、国語で学び、通常の生活の中で発展させ、定着させていくことの継続と、6年間を見据えて系統的に学習していくことにより、本校で学習する6年間で目に見える形として「伝え合う力」を育成していきたいと考えます。

この取り組みを本校の特色として定着していくための一つの道筋を今年度の研究により、つけることができたと考えます。

次年度は、研究の内容が変わることがあっても、この活動が日常的に定着し、本当の意味で子どもたちの力となるよう全職員力を合わせ、引き続きがんばっていきたいと思います。

宮城野の子どもたちを客観的に見つめ直し、この研究に意欲的に取り組んだ研究同人としての教職員を誇りに思うとともに、今年度の研究を進める上でご協力・ご支援をくださった関係諸氏に感謝し、巻頭言といたします。

平成19年3月

校長 熊谷 義也